



昭和七年八月横橋第一四号として二種出版  
昭和七年八月横橋第一四号として二種出版



神奈川県観光図繪

# 神奈川県

## 神奈川県観光図繪

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

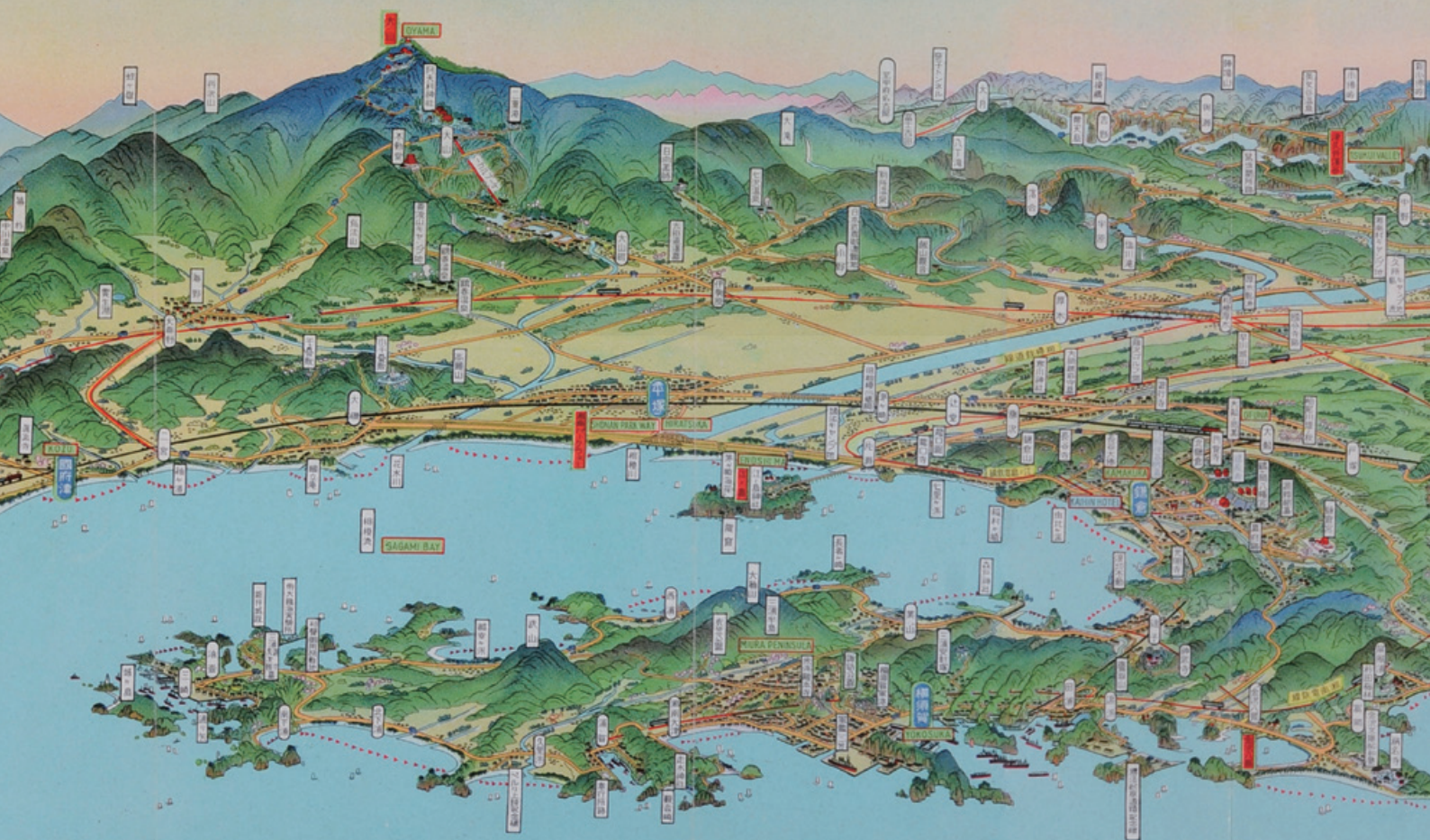
「相鉄」の愛称で親しまれている相模鉄道の前身は、大正十五年五月に二俣川―厚木間を開業した後、星川（現・上星川）、北程ヶ谷（現・星川）、西横浜、平沼橋と延伸を重ね、昭和八年横浜駅に乗り入れ全通した神中鉄道である。この頃の様子は「神中鉄道沿線案内図」（金子常光作画・昭和四年）に詳しい。

一方、大正十年茅ヶ崎―寒川間を開業した相模鉄道は、昭和六年に橋本まで全通。戦時中の昭和十八年に神中鉄道を吸収合併するが、翌年、茅ヶ崎―橋本間（現・JR相模線）の路線が国有化となり、戦後は旧神中線を基に新しい相模鉄道としてスタートを切った。

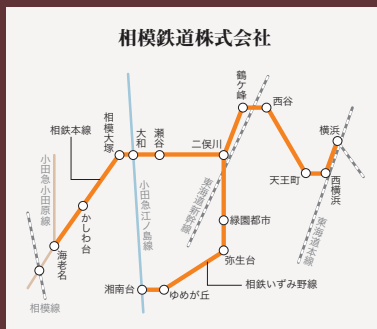
本図の初三郎鳥瞰図は昭和八年刊行なので、合併前の両鉄道が赤ルートで図示されており、参考になろう。ほかに京浜電鉄線・湘南電鉄線とあるのは、今の京浜急行路線である。

大胆にデフォルメ（誇張）した構

藤本一美  
首都大学東京・専修大学非常勤講師。地図情報センター理事。日本地図学会会員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。  
近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版2006年）、  
最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。



『神奈川県 [神奈川県観光図絵]』  
 図柄中にあるタイトルは「神奈川県鳥瞰図」  
 (昭和8 (1933)年4月30日)  
 神奈川県観光連合会 発行  
 京都市内の観光社出版部 印刷



**相模鉄道株式会社**  
 Sagami Railway Co., Ltd.  
 創業：大正6 (1917)年12月18日  
 本社：横浜市西区北幸二丁目9番14号

「ときめきとやすらぎをつなぐ」  
 1日62万人が利用する生活路線

横浜駅西口ターミナルに拠点を置く相模鉄道。横浜—海老名間の本線24.6kmと二俣川—湘南台間のいずみ野線11.3km、計35.9kmの旅客線を営業している。

昭和30年代初頭に開始した横浜駅西口の開発をバネに、沿線の開発と設備の改良を進め、首都圏南西部の高速郊外鉄道に成長した。大手民鉄の中では最短の営業キロだが、1日平均の輸送人員は62万人(2013年度)にのぼる。拠点の横浜駅は1日平均42万人(同)。JR・京急・東急・横浜市営地下鉄・みたとみらい線が接続する巨大ターミナルの一翼を担っている。

現在、都市鉄道利便増進法に基づき、相鉄線とJR東日本および東急電鉄との相互直通運転計画が進められており、相鉄線とJR線は平成30年度の運行開始を、相鉄線と東急線は平成31年の相互直通運転開始を予定している。



図は初三郎が決め、主に弟子たち(本図の実地踏査は主に前田虹映)の筆致の力強さが見られる。左半分に大山講で知られた大山と箱根、天城山を配置し、背景に富士山を一段と大きく描画。中央右下に横長の三浦半島と付け根に大横浜と古都鎌倉江ノ島を、右端には東京から武甲山日光方面まで見通している。画室のある犬山・日本ラインまでちやっかり表示しているのは「遊び心」のひとつだろう。

より子細に見ると、ランドマーク的な名所・旧跡・社寺を立体的絵図として表現し、相模川上流部の中津川溪谷の様子や横須賀の軍艦三笠、伊勢山大神宮、總持寺、川崎大師、県庁、開港記念館、商船の群れなど、細密描写に驚き入るしかない。

また、京浜工業地帯や軍港横須賀基地、水道施設のある要塞地帯を抱える地域なので、時代がかった「昭和七年東京湾要塞司令部」の許可済・検閲済の印字も。

なお、この印刷折図の基になった絹本原画が神奈川県庁地下倉庫から発見されて県立歴史博物館に移管、公開(特別展『ようこそかながわへ 二十世紀前半の観光文化』図録・平成十九年)されたのはうれしい限りだ。